

日野原重明記念「新老人の会」石川



会 報 (60号)

発行日 2024年7月1日(月)

就任のご挨拶

世話人代表 山内ミハル

去る5月25日開催の総会において世話人代表に選任されました。長年世話人代表として会を牽引してこられた鈴木雅夫相談役の後を継いで代表に就任することに身の引き締まる思いです。微力ではございますが、鈴木相談役をはじめ世話人の皆様のご支援を得ながら「新老人の会」石川の活性化のため尽力する所存ですので、皆様のお力添え・ご協力をお願いいたします。



日野原重明先生が亡くなられて7年が経過しました。「新老人運動」の創始者であり実践者でもあった日野原先生の逝去は、東京本部の解散、各支部の独立、新規加入者の減少、会員の減少、日野原イズムの希薄化等、「新老人の会」の活動に多大の影響をもたらしました。

石川においても会員の高齢化が進み、死亡や活動困難等の理由により退会される方が増加しております。また、コロナ禍による外出の抑制もそれを助長する結果となりました。

しかしながら、少子高齢化の時代にあって、「新老人の会」の趣旨である「創めること」、「自立」、「会員の交流」を実践することにより、高齢者が健康で生き甲斐を持って活動することが一層重要になってきていると思います。最近、能登半島地震で仮設住宅に入居した独居老人が孤独死と新聞に記載されていました。非常に残念な出来事です。

こうした中、「新老人の会」石川では、今年度、「会員の集い」の内容の充実を図るほか、新たに、お弁当をもって花見と散策を楽しむ「季節の花見会」の実施、サークル「カラオケを楽しむ会」、「落語(映画)鑑賞会」を新設するなど、会員の皆様に自宅から外へ出て他人と交流する機会を増やす事業を計画しております。皆様もご自分の健康・体力を勘案しつつ参加してみたいかがでしょうか。

「新老人の会」石川が会員の生き生きとした活動の拠り所となるよう、また、日野原イズムの継承にも努めてまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

第2回会員の集い&昼食懇話会開催のお知らせ

日 時：2024年8月24日(土) 11:00~13:00
内 容：ハーモニカアンサンブル演奏会
出 演：ルビアスマイル
場 所：金沢ニューグランドホテル
会 費：3,500円(昼食代を含む)



※同封の返信用ハガキに必要事項を記入し8月9日(金)までに投函してください。

2024年度定期総会&昼食懇話会の開催

高 木 正 二

2024年度定期総会&昼食懇話会が5月25日(土)、会員23名の参加により金沢ニューグランドホテル3階「パラッツオ」で開催されました。

定期総会は山内事務局長の司会で開会し、冒頭の挨拶で鈴木雅夫世話人代表は令和6年能登半島地震に言及し、甚大な被害や自らの体験について話された後、防災対策と支援を呼びかけました。

次に、新入会員の紹介があり、昨年9月に加入した早川由紀さんが紹介されました。

続いて議事に入り、始めに、事務局から、本日の総会が出席23、委任状9、計32で、会員数36の過半数を超えており成立している旨の報告があり、議長に選出された大島恒治さんの進行で以下の6議案

第1号議案 2023年度(令和5年度)事業報告

第2号議案 2023年度(令和5年度)会計決算報告

第3号議案 2024年度(令和6年度)事業計画(案)

第4号議案 2024年度(令和6年度)会計予算(案)

第5号議案 任期満了に伴う役員の選任について

第6号議案 規約の一部変更について

が審議され、満場の拍手で承認されました。



2024年度(令和6年度)事業計画(案)では、11月の第3回会員の集いで日野原真紀氏を講師にお迎えすることや、新たな事業としてお弁当をもって花見と散歩を楽しむ「季節の花見会」の実施、サークル「カラオケを楽しむ会」、「落語(映画)鑑賞会」の新設などが承認されました。

任期満了に伴う役員の選任では、鈴木雅夫世話人代表が代表を退任し相談役に選任、山内ミハル事務局長を世話人代表に選任、世話人の数澤輝夫、前川昭治両氏の退任に伴う新世話人として久保恵美子、吉田弘之の両氏を選任する案が承認されました。

また、山内事務局長の世話人代表就任に伴い、後任として高木書記が事務局長に選任されたことから、会の事務所の住所(事務局長宅)を変更する規約の一部変更が承認されました。

議事終了後、新任の世話人代表、世話人が紹介され、それぞれから挨拶がありました。

総会終了後昼食懇話会が開かれ、参加者は食事を摂りながら和やかに会話を楽しんでいました。途中、福岡恒忠さんがオカリナで「竹田の子守唄、お嫁において、北の国から」の3曲を演奏し、見事な演奏に会場から盛大な拍手が送られました。オカリナサークルの復活を期待したいと思います。終わりに、鈴木相談役のハーモニカ伴奏で「ふるさと」を全員で歌い、閉会となりました。

オカリナを演奏する福岡さん



《心に残る日野原先生の言葉》

「創めよ」

大島恒治

日野原先生の名言は数多ありますが、何といても「創めよ」につきますね。

「新老人の会」に入会してから、俳句の会「花明り」に加入し、北山講師のもとで俳句作りを創めました。

俳句は世界で最も短い詩で、五・七・五という17拍の短いリズムの中に「季語」を入れるというルールがあります。実際に俳句を作ってみて、「季語」を取り込むためには、五感を総動員する必要があるということに気づきました。しかし、この五感というもの、年齢とともに衰えていきます。

最初に詠んだ句が「合の手を 入れてみせたや 鉦^{かね}叩き」というものでしたが、次の年の秋には、今年は鉦たたき(コオロギの一種)がまだ鳴かぬと気をもんでいたら、家族から、今盛大に鳴いているよと笑われる始末で、五感の衰えを感じさびしい気持ちになりました。

そこで、五感にたよることなく、想像力、好奇心をかきたてて勝負することも日野原リズムにかなうことにならないかと、時代を超越した世界の情緒というものを想像してみました。

ご笑覧下さい。

《太古》

切通し ジュラ紀の層に 蝶が舞ふ

《中世》

ひきがえる 池からとびだし 御簾^{みす}の陰

《戦国時代》

虫の音が やみて武蔵は 差料^{さしりょう}を
小次郎よ つばくろ何羽 切りすてし

《江戸時代》

野袴の 裾にまつわる 風は秋
わらじの緒 結ぶ手甲に 初あられ

《近未来》

.....

「老いを生きる」生活雑感

新老人は死んでも生きる？

福岡恒忠

今年の3月、私は満94の歳を迎えました。そして思わずこんな句？を詠みました。

“山笑う ここまで来たかと 9と4歳”

毎週2回、通所しているリハビリセンターの仲間たちが誕生日を祝ってくれたので、この句をみんなの前で披露しながら、お蔭様でもう〈苦〉も〈死〉も越えたところに来てしまったようです。と今の心境を語ったりしていました。

なぜ94歳なのかというと、私が妻晴美と結婚した時の仲人をして下さった、私の大変尊敬する先生が94歳まで生きた方でした。それで私は長い間、先生の年まで生きるぞと人生の目標にしてきたのでした。

ありがたいことです。もういつまでも9〈苦〉と4〈死〉にこだわる必要が無くなったのですから。

何だか語呂合わせのような話になってきましたが、私にはこれには忘れることのできない貴重な体験があるのです。

私の大切な妻晴美が、一昨年9月8日に89歳で天に召されて行きました。その死を目前にした床の傍らで、彼女に私が読んで聞かせた聖書の中の主イエスの言葉、『私は復活であり、命である。私を信じる者は、死んでも生きる。生きていて私を信じる者は誰も、決して死ぬことはない。このことをあなたは

信じるか』と読み終わると、即座に「信じます」と答えたのでした。

その時の彼女は、天の一角を見つめながら天使に手を引かれているように思われました。

人間の現実とは〈死〉をもって終わるが、神の現実とは永遠の世界、人間の現実をも包み込んでいる。新老人の私は、人間の生みの親である、神の許で〈死んでも生きる〉と信じて生きています。

日野原重明先生百歳記念植樹（シラカシ）の見守り

数澤輝夫

皆さんは、大乘寺丘陵公園に日野原重明先生の百歳を記念して植樹したシラカシがあることをご存じでしょうか。

金沢市「緑と花の課」にお願いして大乘寺丘陵公園内に植樹の場所を確保し、2012年3月11日、日野原先生が講演のため金沢にお越しになった際にシラカシを植樹しました。

当日、日野原先生は鈴木大拙館を訪ねられたため、残念ながら植樹には参加していませんでしたが、



これを契機にサークル「新みどりの会」が発足し、記念樹の管理をしてきました。今では記念樹は大きくなり、しっかりと大地に根を張って青々と葉を茂らせています。

また、2013年4月には「新老人の会」石川支部設立5周年を記念して、シラカシの隣接地にエノキを植樹しました。これも元気に生育しています。



サークル「新みどりの会」は、会員の高齢化により解散しましたが、2本の記念樹のお世話を今後とも続けていかなければならないと思います。今年度から、「新老人の会」石川の事業としてお花見を兼ねて記念樹の見守りが行われるとのことですが、私も見守りを続けていきたいと思っています。

皆さんも、現地に足を運び記念樹をご覧になって、日野原先生に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

第16回会員余技作品展開催のお知らせ

第16回会員余技作品展を次のとおり開催いたします。写真、絵手紙、俳句に限らず手作りの作品であればジャンルは問いません。皆さんの出展をお待ちしています。

期 間：2024年8月27日(火) 13:00～
2024年9月1日(日) 15:00

場 所：石川国際交流サロン

主 催：日野原重明記念「新老人の会」石川

同封の申込書に必要事項を記載し、8月9日(金)までに提出をお願いいたします。

川柳

(順序不同)

大島恒治

ふと君を思いだしけりバラのとげ

おそろしや君の酒ぐせしらなんだ

新川光子

美味しそう値段見てまた迷います

お年寄りATMと会話する

高木要子

新緑の中に真っ黒メガソーラー

和トイレで手すりがあつて助かった

旅支度アナログ時計久しぶり

中谷茂次

創めれば百歳超えても老化無し

能登復興希望の星は大の里

支援金能登より西が優先か

(西の万博はお祭りだよ！)

福岡恒忠

天使舞う出逢の朝と見送る夕

別れの日また会いましょねと握る手

高木正二

政活費十年後公開黒塗りで

「歌集 母の唐鍬 飯田世三」を読んで

鈴木雅夫

昨年9月、「新老人の会」会員の飯田世三さんから「ちょっと本を作ってみたので読んでみて」と一冊の本を渡されました。飯田さんとはサークル「やさしい太極拳」で月に2回くらいお会いする程度で、昔は学校の先生をしておられたというようなことしか知りませんでした。

帰って本を開いてみると、何と短歌の歌集でした。表題は「歌集 母の唐鍬 飯田世三」とありました。目次の前に野菜の収穫をしておられる写真と略歴が記載してあり、教員として定年まで勤め、退職後も社会福祉法人や遺族会、老人会、町内会等のお世話をされたこと、何歳になっても挑戦する、他人と交流することが大切だと思っていること等が紹介されていました。



著者によるあとがきでは、高校時代の「万葉集の学習」で山上憶良、文部稲麻呂の和歌に心が惹かれ、いつかこのような歌を作ってみたいと思われたとのことでした。その後も「余裕ができたなら短歌創作を」との思いを持ち続け、退職後、NHK学園短歌講座を受講し短歌創作を始められたとのこと。高校時代の短歌への思いを忘れることなく、数十年後に創作を始め、NHKの全国大会で入選し、遂には歌集を発売して夢を実現した飯田さんの思いの強さと努力、実行力に深い感動を覚えました。まさに、日野原先生の「創めること」の実践ではありませんか。

また、表題の「母の唐鍬」は、昭和13年の父君の中国徐州での戦死の後、農業一筋で家族を支えてこられた母君が永年使っておられた「唐鍬」のことで、畑作業とともに飯田さんが受け継ぎ現在も大事に使用しているそうです。この表題は、母子の絆を象徴すると共に飯田さんの母親に対する敬愛の念が込められているように思います。

さらに、随所に奥様、ご家族、お孫さんが登場し、飯田さんがご家族に囲まれ暖かい生活を送っていることが想像されました。

歌集には数多くの短歌が収録されていますが、特に私の心に残ったのは右記の歌です。

この歌集の短歌は、いずれも日々の暮らしを題材に、ご本人のいうところの「口語自由詩みたいに」表現されており、とても分かりやすく、是非、皆さんにも一度味わっていただきたいと思っています。

歌集に収録された短歌で特に私の心に残った歌

△戦死された父君の慰霊式に参列した際の歌△
父眠る徐州は何処目を凝らす機下に広がる赤茶けた曠野
ろうそくや香の火のなき慰霊式共に嗚咽の南京のホテル

△家族・親族が末期癌と宣告され闘病中の歌△
壮絶な戦いになりし末期がんの命のもろき義兄を看取る
「何とかして」点滴ちぎり苦しみてがんの弟白日に逝く

△母君から受け継いだ鍬に関する歌△
昭和期の最後の鍛冶屋に叩かれし母の鍬先すぶりと土嚙む
長年の汗と汚れの染みついた母の鍬刃は薄くなりたり

日々の俳句 花明り

(順序不同)

鈴木雅夫

温熱に気色輝く紫陽花や

夕風や送りきし友さくらんぼ

宮下美智子

露草の瑠璃に添ひ行く試歩の徑

内濠の逆さ櫓や夏燕

福岡恒忠

走り梅雨無きままの朝薄着かな

住む人のなき庭先の立葵

大島恒治

砂かぶり力士の汗ももるともに

(テニス)

二の腕の白きがたぐる初夏の風

新川光子

春バラや彩とりどりに庭飾る

店先に並ぶ青梅甘き香や

北山八重子

百坪の庭に紅白夏椿

夏夕陽海群青に母の里



はめ字作品

はめ字の面白さは、作る人のアイデア次第で全く違う文章が出来るところです。風情や哀愁といった日本語の面白さを感じながら創作にチャレンジして見ませんか。多数のご応募をお待ちしています。

締め切りは8月20日 鈴木雅夫まで

次回作品募集

		ひ	
		と	
れ	ぼ	め	と
		ほ	
		れ	

ほ	恋	な	気	相
し	の	か	に	性
で	い	な	か	な
占	の	い	け	ど
う	ち	で	ず	は

新川 光子

い	僕	な	辛	ど
つ	が	か	ら	ん
で	い	な	か	な
も	る	い	ろ	に
ね	よ	で	と	も

福岡 恒忠

経	悲	な	の	勇
験	し	か	結	敢
で	い	な	か	な
す	恋	い	だ	告
よ	も	で	ね	白

高木 要子

こ	つ	な	た	便
れ	ら	か	父	り
で	い	な	か	な
終	思	い	え	か
了	い	で	る	っ

高木 正二

気	強	な	癌	不
力	く	か	は	安
で	い	な	か	な
快	き	い	ん	電
復	よ	で	臓	話

飯田 世三

と	い	な	た	そ
ん	ま	か	た	こ
で	い	な	か	な
み	ち	い	れ	の
ろ	ど	で	て	よ

大島 恒治

叫	亡	な	屋	烏
ん	者	か	根	の
で	い	な	か	な
る	る	い	わ	き
よ	と	で	ら	声

飯田 世三

つ	つ	な	学	特
ま	よ	か	校	別
で	い	な	か	な
で	絆	い	わ	友
も	い	で	る	達

高木 正二

願	新	な	失	流
望	し	か	恋	す
で	い	な	か	な
す	出	い	く	み
な	会	で	別	だ

飯田 世三

思	涙	な	弟	お
い	は	か	喧	さ
で	い	な	か	な
で	つ	い	しい	
す	も	で	た	兄

高木 要子

話	共	な	楽	天
が	に	か	し	国
で	い	な	か	な
き	き	い	ろ	ら
る	て	で	な	ば

福岡 恒忠

の	あ	な	い	ば
ん	つ	か	い	か
で	い	な	か	な
よ	と	い	ら	ひ
ね	こ	で	さ	と

大島 恒治

編集後記

能登半島地震からちょうど半年が過ぎました。復旧・復興にはまだまだ程遠い感じです。そんな中であって、励まされ元気の出る原稿をお寄せいただいた会員の皆さまに感謝します。

先の総会で、2024年度の事業として、新企画の会員の集い、サークルが承認されました。例年開催してきました余技展も予定されています。それぞれの企画に参加していただき、その感想なども今後の会報に投稿していただけると嬉しいです。

(山内ミハル記)

次号の発行は2024年10月1日、原稿締切日は2024年8月20日です。字数は原則800字程度でお願いします。

送付先：高木正二

〒920-3114 金沢市吉原町ヨ 190 番地

E-mail sytakagi@sea.plala.or.jp

編集責任者：世話人代表 山内ミハル

編集委員：鈴木雅夫、新川光子、福岡恒忠、

高木正二

印刷：「新老人の会」石川 事務局